

令和6年度 学校評価実施報告書

学校名 (太秦中 学校)

教育目標	
自ら考え行動し、協働できる生徒の育成 ～つながりを意識した学校～	
年度末の最終評価	
自 己 評 価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <p>【学校教育目標】自ら考え行動し、協働できる生徒の育成</p> <p>【目指す生徒像】周りの意見に耳を傾け、自分の考えを適切に伝えられる生徒</p> <p>【目指す教職員像】愛情をもって生徒と関わりあい、ともに成長できる教職員</p> <p>年度当初に全教職員と確認し、教育活動を始めることができた。</p> <p>より意識的に「協働できる生徒」を育成するために、修学旅行や体育大会、太秦文化の日などの学校行事の企画・運営をしっかりと検討し、他者とのつながり認め合い協働することの大切さや楽しさを、昨年度よりも生徒へ伝えることができた。体育大会では学年間のつながりを、太秦文化の日の舞台発表では学年のつながりを、合唱コンクールではクラスのつながりをそれぞれ重視した。生徒もそれぞれの場面で精一杯思いを表現・行動することができた。</p> <p>また、あまり活用できていなかったGIGA端末も活用できるようになってきた。</p> <p>しかし、日々の授業においても教育目標達成に向けた取組が必要であり、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実、課題解決型学習への転換をより進めていき、教員自身の授業に対する意識改革を進め取り組むことを継続発展させていくことが課題である。そのなかでも、総合的な学習をより探究的学習に切り替えていく必要がある。</p>
学 校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育大会を見ながら、みんなで何かに取り組むことができることは良いことだと実感しました。近年、多様な学びがあるけれども、公立中学校においては協働できることが素晴らしく思います。 ・小中連携は、基礎学力の向上に向けて不可欠であると共に、生徒一人ひとりの成長を長い目で見守るという視点でも大切だと思います。 ・義務教育として、将来の為に必要な基礎学力の向上に向けた指導を引き続きお願いします。 ・本人はもとより、保護者も認める通り自学・家庭学習には、中々積極的に取り組むことが難しいようです。中学校で学んだ基礎学力は将来への財産です。貴重な時間を大切に学んでほしいと願います。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和6年10月25日 (第2回学校運営委員会)	学校運営協議会理事
最終評価	令和7年2月27日 (第3回学校運営委員会)	学校運営協議会理事

(1)「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

カリキュラム・マネジメントを通して協働の基盤となる言語能力を育成する

具体的な取組

カリキュラム・マネジメントの3つの側面から育成を目指す資質能力である「言語能力」を育成する

①教科横断的な視点

- ・全ての教育活動で言語能力の育成を意識し、授業内で実践する
- ・内容（教材）、思考ツール、話し合いの手法、GIGA 端末の活用を関連単元配列表に記入、他教科との関連を交流して教科横断的な活用をめざす

【授業改善に向けて】

- ・新学習指導要領に対応した授業と評価の実践。特に思考力・判断力・表現力をつける授業と評価。また、主体的な態度の育成の評価について…異動着任の先生にも伝わるようにする
- ・OJTの一環として、教員同士の授業参観週間を設け、授業の資質の向上を目指す

②PDCA サイクルの確立

- ・教科会・学年会・職員研修において学習確認プログラムや全国学力・学習状況テストの分析を行う
- ・振り返りシートを見直し、改善する（「自己変容」「他者からの学び」ができるもの、主体的に学習に取り組む態度が適切に見とれるもの）
- ・キャリア・パスポートの活用

③人的物的資源の活用

- ・GIGA 端末の授業での効果的活用
- ・より深い小中連携の実践（小中主任会の複数回実施、合同研修会、作品展、美化活動、キャリア・パスポートの活用、ジョイントプログラムや体力テストの結果共有）
- ・ゲストティーチャーによる授業の実施

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・ジョイントプログラム、学習確認プログラム、全国学力学習状況調査の分析結果
- ・家庭学習の点検結果
- ・生徒、保護者アンケート結果
着目項目…・生徒自身の自己調整学習が進んだかどうか
 - ・授業での言語活動で自分の思いを表現することができたかどうか
 - ・協働的に活動できたかどうか
- ・教職員アンケート結果
着目項目…・言語活動を意識的に取り入れることができたかどうか
 - ・教科横断的な授業を他教科と連携し、計画的に実施できたかどうか
 - ・協働を意識した取り組みを計画的に実施できたかどうか
- ・自ら学ぶ姿勢の育成ができたかどうか

中間評価

各種指標結果

・生徒・保護者アンケートの結果	令和6年度	令和5年度
生 ①自主的に家庭学習ができましたか。	62.1%	←62.3%
保	46.9%	←49.6%

生 保 生 保	②コミュニケーション力（聞く力、話す力）がついたと思いますか。 ③人前で話すことが前よりできるようになりましたか。	80.3%←81.6% 74.0%←78.7% 80.7%←81.5% 72.8%←72.4%
・教職員アンケートの結果		
生 保	生徒が自主的に家庭学習に取り組めるように課題を提示できていますか。 生徒が自ら考え、行動するように指導できていますか。	72.7%←56.7% 87.9%←93.3%
自己 評 価	分析（成果と課題）	
	ジョイントプログラム・学習確認プログラム結果 ・1年生ジョイントプログラム国語は全市平均、数学は全市平均を下回る結果。あまり定着していない家庭学習を増やして、最終的には自学自習のできる生徒の育成を目指したい。 ・2年生学習確認プログラム社会は全市平均を上回った。国語、英語は全市平均。数学、理科は全市平均を下回る結果。2年生はどの教科も前回と比べ正答率が上がっている。少しずつ成果が出ている生徒が増えているようである。今後も基礎的な知識の定着を目標に続けていく必要がある。 ・3年生学習確認プログラムは、理科以外は全市平均を上回った。英語については特によくできている。学力の推移としては大きく変化はないが、全体として少しずつ成果が出ている生徒が増えているようである。	
	分析を踏まえた取組の改善	
1年生 家庭学習を増やし、基本の力が定着するよう、できる範囲で個別の指導などを丁寧に行っていきたい。 2年生 基礎的な知識の定着に向けて、授業規律を整え、地道なことを着実に取り組ませることで、学力を向上させていきたい。 3年生 希望の進路に向けてさらに学力をつけていけるよう取り組んでいきたい。 全校生徒 「自主的に家庭学習ができましたか」というアンケート結果をふまえ、学年や教科で家庭学習の重要性を共通理解し、効果的な家庭学習をさせていけるよう取り組んでいく。		
（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標		
・ジョイプロ・学プロ・全国学力・学習状況調査の分析結果。 ・生徒・保護者アンケートの結果 ① 自主的に家庭学習ができましたか。 ② コミュニケーション力（聞く力、話す力）がついたと思いますか。 ③ 人前で話すことが前よりできるようになりましたか。 ・教職員アンケートの結果 ①生徒が自主的に家庭学習に取り組めるように課題を提示できていますか。 ②生徒が自ら考え、行動するように指導できていますか。		
学 校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策	
	・勉強が好きでないという子が少数いるのに対し、家庭学習や振り返りをし次に活かそうとしている子が多いのは、努力している子がたくさんいるのだなと感じました。素晴らしいことだと思います。 ・義務教育の最終段階という事から、中学は基礎学力の見直しをする期間ではないでしょうか。しっかりとした土台の上に学力の向上があると思います。	

- ・自主学習や復習については、生徒の評価としては60～70%が頑張っていますが、学習は楽しいか・好きですかの設問には、いささか問題が残ります。以前にも言った様に好きにならなくても、嫌い・苦手の科目を作らない様に、努力して欲しいと思います。中学生になれば学習の楽しさや、やれば出来る欲が湧いてくると思います。
- ・平均的なものを追い求めすぎている。平均的なものを超えていくことを求めなければ平均に留まってしまいます。目標設定を再度見直すことも必要だと感じます。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

・ジョイプロ・学プロ・全国学力・学習状況調査の分析結果

1年生のBasicStage1では総合が全市平均よりも若干下回った。国語と英語は全市平均を上回った。

2年生のPre-Stage2では全教科全市平均よりも若干上回った。社会が全市平均を大きく上回った。

3年生の全国学力・学習状況調査の結果は国語、数学とも、おおむね全国平均を上回った。

・生徒・保護者アンケートの結果

後期結果 前期結果

生 ①自主的に家庭学習ができましたか。

69.9%←62.1%

保

56.1%←46.9%

生 ②コミュニケーション力(聞く力、話す力)がついたと思いますか。

83.5%←80.3%

保

81.6%←74.0%

生 ③人前で話すことが前よりできるようになりましたか。

79.4%←80.7%

保

79.4%←72.8%

・教職員アンケートの結果

生徒が自主的に家庭学習に取り組めるように課題を提示できていますか。78.2%←72.7%

生徒が自ら考え、行動するように指導できていますか。

96.9%←87.9%

自己評価

分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・工夫された家庭学習の提示により、生徒の家庭学習にも変容が見られた。今後より一層、授業と家庭学習をつなげ、授業で学んだことを家庭学習で深め、さらに家庭学習で深めたことを授業で応用していくサイクルを確立していけるようにしていきたい。そのためにも適切な評価も必要と考える。
- ・担当教科だけでなく、道徳や総合、学活を含め様々な教育活動で協働の基盤となる言語能力の育成を意識することにより、生徒にもつながりを意識したコミュニケーション力が付いたと考える。
- ・人前で話すことに関しては、ポイントを伸ばすことができなかった。今後人前で話す機会を作ることはもちろん、その過程で自信をつけさせるような教員のサポートや周りの仲間が聞いてくれたり、称賛してくれたりする安心した空間を作っていくことが大切だと考える。

分析を踏まえた取組の改善

- ・研修会や教科主任会等で、授業のあり方や授業づくりについての工夫、改善についての研修、交流を進めていく。
- ・学習に困りを抱えている生徒の理解や、生徒を支援するための手立てを知る研修会を開く。
- ・カリキュラムマネジメントを意識して教科横断的な教育活動を進めるために、定期的な関連単元配列表の見直しをする。

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校で学んだ事は、必ず将来の糧になると思います。限られた時間を大切に学んでほしい。 ・ 子どもたちの意欲は様々ですが、タイミングよくスイッチが入れば伸びてゆくと思います。 ・ アンケート結果の数値ばかりにとらわれず、肌感を大切にご指導いただければと思います。 ・ 平均的なものを超えていくことを求めなければ平均に留まってしまいます。 ・ 目標設定を再度見直すことも時には必要だと感じます。
---------	--

(2)「豊かな心」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <p>自己有用感を高め、自尊感情の高揚を図り、自他を大切にする心など、つながりを意識した豊かな人間性の育成を目指す。</p>
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が関わる周りの人たちとのつながりを意識し、自己肯定感や自己有用感が得られる取組の推進。 ・ 「生徒を切り捨てない」「生徒を切り離さない」を基底に据え、共感的な生徒理解に基づく個に応じた指導の推進を図るとともに、生徒相互、生徒と教職員の受容的・共感的な人間関係の育成・深化。 ・ 「豊かな心」の育成の柱となる道德教育の充実。 ・ 道徳的実践力を育むため、道德教育との柱となる道德の授業と特活・行事との連携。 ・ 学校経営の柱である「受容的・共感的な人間関係の育成」に向けた、一人一人が大切にされていると実感できる学級づくりの推進。 ・ 生徒たち自身の手による「より質の高い集団作り」に向け、生徒会活動の一層の活性化。 ・ 教育活動全体を通じた、人権尊重の精神の育成。 ・ 生徒たちが多文化共生社会の担い手となるため、太秦の地と外国とのつながりに気づく取組の推進。
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒、保護者アンケート結果 <ol style="list-style-type: none"> ①自分を大切にしていますか ②他人を大切にしていますか ③1人1人が大切にされている学級ですか ④友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか ⑤家族や先生など大人とつながっていると感じていますか <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談の結果

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒・保護者アンケート 	令和6年度 令和5年度
生 ①自分を大切にしていますか。	88.5% ← 89.5%
保	95.9% ← 94.0%
生 ②他人を大切にしていますか。	97.0% ← 96.8%
保	95.4% ← 95.9%
生 ③一人一人が大切にされている学級ですか。	90.9% ← 90.9%

保 生 保 生 保	<p>④友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか。</p> <p>⑤家族や先生など大人とつながっていると感じていますか。</p>	<p>89.5%←85.8%</p> <p>91.3%←90.2%</p> <p>91.6%←91.8%</p> <p>93.9%←94.9%</p> <p>94.5%←93.7%</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートでは「他人を大切にしている」「友達や先輩、後輩とのつながり」の項目で数値がさらに上昇したが、「自分を大切にしている」の項目では数値が減少した。昨年度「つながり」を意識してすべての教育活動にあたっていくことを年度当初に教職員の中で共通認識していたことが一つの成果だと考えられる。しかし、自分のことを大切だと思える自尊感情の育成においても意識して取り組んでいく必要がある。 ・一方保護者アンケートでは、生徒アンケートでの上がり下がりとは全て逆を指している。保護者からの生徒の見え方と実際に生徒が感じていることに少し差異があることを教職員は認識して教育活動に当たっていく必要がある。 ・保護者アンケートの「一人一人が大切にされている」の項目では数値が大きく上昇している。学級経営や授業での生徒との関りがより良くなるように教職員が取り組めた成果だと考えられる。 	
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、年度当初に全ての教育活動において「発信力を高める」ことを意識していくことを全教職員で確認した。生徒は自尊感情がなければ人前で発表したりすることはできない。発信力を高め、自尊感情や自己肯定感を高めていければと考えている。 ・このアンケートの結果を真摯に受け止め、昨年度に引き続き「つながり」を意識して、教育活動に臨む。 ・日々の生活で生徒と関わり、生徒を褒める機会を大切にする。 ・授業では、生徒がパフォーマンスできる機会や評価される機会を増やし、自己肯定感を高めていく。 ・保護者に生徒の様子を伝える機会を増やしたい。学級・学年通信や学校だより、ホームページ等で、学校の取組や生徒の様子を積極的に発信していきたい。 	
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者アンケート <ul style="list-style-type: none"> ① 自分を大切にしていますか。 ② 他人を大切にしていますか。 ③ 一人一人が大切にされている学級ですか。 ④ 友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか ⑤ 家族や先生など大人とつながっていると感じていますか 	
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身を含めて、友人・家族・先輩・後輩・クラスメート・教員、自身の身近な人達を大切にしている事は、太秦中学校の生徒として誇りに思ってください。これからの永い人生において、色々な出会いがあると思いますので、人を愛し大切にしたいと思えます。 ・失敗して傷つく事で、心の痛みを知る事も大切。他人にやさしくなれるのは、相手の痛みを思いやれるから。いろいろな経験を重ねて大人になるまでの貴重な時間、まず自分を大切にする 	

事から始めてほしい。

- これからの時代は、相手のために自分の力をどれだけ使うことができるかが大切であり、必要な力だと感じる。よく夢を持っていないというが、子どもたちは夢を持っている。夢が目標になり目標達成に向けて頑張る子どもになっていく。目標を持つ子どもを育ててほしい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

	後期結果	前期結果
・生徒・保護者アンケート		
生 ①自分を大切にしていますか。	93.0%←	88.5%
保	97.8%←	95.9%
生 ②他人を大切にしていますか。	98.5%←	97.0%
保	97.8%←	95.4%
生 ③一人一人が大切にされている学級ですか。	90.8%←	90.9%
保	87.7%←	89.5%
生 ④友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか。	90.8%←	91.3%
保	90.6%←	91.6%
生 ⑤家族や先生など大人とつながっていると感じていますか。	97.1%←	93.9%
保	96.7%←	94.5%

自己評価

分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ①②の項目では、生徒・保護者ともに値が上昇している。今年度は、生徒の発信力を伸ばすことを特に意識して教育活動にあたっている。その中で、意見を言えるように生徒に自身をもたせること、意見を聞く側も意見を言いやすいように相手を思いやることなども指導している。その成果が少しずつできてきていると思われる。
- ③において、①②から一人一人の心は育ってきているように思われるが、それが行動までには現れておらず、学級の雰囲気がより良くなるまでには至っていないと考えられる。全ての生徒が大切にされていると感じる温かい学級を作れるようにより一層努める必要がある。
- ④において、今までチームを引っ張っていた3年生が引退したことが大きな原因だと考えられる。2年生の力を育て、先輩としての責任と自覚をもち、後輩を引っ張り、つながりを感じられるような教育活動を行っていく必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

- 道徳の授業をより充実させ生徒に道徳的価値を考えさせる時間をしっかりと設けていきたい。
- 生徒の規範意識を高め、時間やルールを守り、どんな生徒も受け入れられる集団をつくることで、全ての生徒にとって教室を居心地の良い場所にしていく。
- 生徒のリーダー性を高め、大人はコーディネーターとなることで、生徒主体の活動を多く取り入れ、生徒同士のつながりを強めていく。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- 子どもたちがいろんな人との繋がりを持っていること、一人一人が大切にされている学校であることも感じられました。
- 道徳がとても大切で、日々の親子の会話が見直されるきっかけになればいいですね。
- まずは話をしっかり聞く事から始め、次に表現することコミュニケーションを大切にし、豊かな心を養って欲しいと思います。

・人に優しくなれるのは、相手を思いやれるから。まず自分を大切にする事から始めてほしい。

(3)「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

基本的な生活習慣の改善と心身の健康の自己管理能力の向上（感染症予防を含む）に向けた保健指導の充実を図る。

具体的な取組

- ・ 食事、運動、休養、睡眠など調和のとれた基本的な生活習慣の習得
- ・ 飲酒、喫煙、薬物の有害性や危険性、医薬品についての正しい知識の修得とその活用
- ・ 運動することの楽しさを味わい、生涯スポーツにつながる体育学習のより一層の充実
- ・ 心身の健康の保持増進を目指した食教育の推進
- ・ 交通事故や水難事故、転落事故、熱中症等様々な危険から身を守るための知識を身に付け、判断力を養う安全教育の充実
- ・ 地震、台風、豪雨、火災等の災害は身近に起こりうるものとして捉え、主体的に行動する力を育てる防災教育の推進
- ・ 感染症の予防についての正しい知識の習得と適切な行動を実践できる保健教育の充実

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・ 生徒、保護者アンケート結果
 - ① 防災や喫煙、薬物の危険性など十分にわかりましたか
 - ② 規則正しい生活ができていますか
 - ③ 自らの健康増進ができていますか
- ・ 教職員アンケート結果
 - 健康増進に向けた指導をできていますか

中間評価

各種指標結果

		令和6年度	令和5年度
・ 生徒・保護者アンケート	生 ①防災や喫煙・薬物の危険性など十分にわかりましたか。	96.7%	←97.7%
	保	95.0%	←92.9%
	生 ②規則正しい生活ができていますか。	83.2%	←79.4%
	保	73.6%	←70.9%
	生 ③自らの健康増進ができていますか。	86.3%	←81.1%
	保	62.8%	←65.3%
・ 教職員アンケート	健康増進に向けた指導をできていますか。	78.7%	←83.3%

自己評価

分析(成果と課題)

- ・ 生徒の防災や喫煙・薬物の危険性の理解は、昨年度と比較し低下している。今後、増加傾向になるように指導を徹底していかなければならない。
- ・ 規則正しい生活や健康増進については、生徒・保護者の回答が増加している。健康に関する意識が低下することなく増加傾向であるのは、日々の家庭や学校での指導の成果であると考えら

	<p>れる。しかし睡眠不足や欠食が原因で体調不良を引き起こす生徒も多くいる。望ましい生活習慣について生徒自身が気づき考え行動することができるようになることが課題となっている。教職員の健康増進に向けた指導については、昨年度と比較し低下しているため、教職員が指導を行いやすい保健だより等を作成したい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年取り組んでいる安全や防煙、薬物乱用防止等に関する学習の時間を大切に、学びを定着させていく。 ・望ましい生活習慣や健康増進に関する啓発及び指導を学校生活の様々な場面で適宜行っていく。生活習慣が乱れがちな生徒に関しては個別指導を継続して行っていく。全体指導としては、保健委員会による生徒からの望ましい生活習慣や健康増進に関する発信を行い、生徒主体で取り組んでいきたい。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート <ul style="list-style-type: none"> ①防災や喫煙・薬物の危険性など十分にわかりましたか。 ②規則正しい生活ができていますか。 ③自らの健康増進ができていますか。 ・教職員アンケート <ul style="list-style-type: none"> ①健康増進に向けた指導をできていますか。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康増進については、若干生徒と保護者の考察には差があり、矢張り生徒は夜遅くまでスマホ使用していて、睡眠時間が短くなりがちです。早寝・早起き・朝食はしっかり取る事は、何時の時代も変わりはありません。ご家庭で親子が向き合っってしっかりコミュニケーションを交わして頂きたいと思います。 ・体力面だけでなく、思春期における身体と心のアンバランスにも注意して見守る必要があると思います。 ・5時下校時間が小学校と中学校で揃っていて、一緒に帰る姿を見るといいなと思う。小学生にとっては中学生がいることで防犯上でもプラスになっている。声を掛けながら話しながら帰る姿になればもっといいなと思う。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果		
・生徒・保護者アンケート	後期結果	前期結果
生 ①防災や喫煙・薬物の危険性など十分にわかりましたか。	99.2%	←96.7%
保	96.7%	←95.0%
生 ②規則正しい生活ができていますか。	84.6%	←83.2%
保	68.4%	←73.6%
生 ③自らの健康増進ができていますか。	86.0%	←86.3%
保	63.4%	←62.8%
・教職員アンケート		
健康増進に向けた指導をできていますか。	75.1%	←78.7%

自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災や防煙・薬物乱用防止に関する学びは例年通り高率で定着しているが、生活習慣については前期と比較すると、生徒は少し向上しているが保護者が低下している。 ・保健室の来室の多くが睡眠不足あり、生活習慣の乱れによる不調が増加傾向である。また人間関係でのトラブルにより不調をきたしている生徒も増加している。生活習慣の乱れと心身の健康が密接にかかわっていることに生徒自身が気づき、考え、行動できるようにしていきたい。望ましい生活習慣に向けた指導を引き続き取り組んでいく必要がある。 ・教職員の健康増進にむけた指導についてが低下しているため、学校全体で健康について指導できるように取り組んでいきたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康観察や生活調べアンケートによる生活習慣（睡眠時間、食事、直近の生活など）の様子の確認を引き続き行う。また、生活を振り返り、生活習慣の乱れが不調の原因になることを自覚させる。個別指導だけでなく、ほけんだよりや掲示物を通じて全体指導を行い、定期的に生活を振り返る機会を設ける。 ・睡眠不足の原因の一つに、スマートフォンの利用時間が長いことがあげられる。スマホは生徒たちのコミュニケーションツールの一つにもなっているため、メディア機器が睡眠にどのような影響があるのか、睡眠が心身の健康につながっていくこと等、メディア機器との上手な関わり方を指導していく。また気になる生徒に関しては、適宜対応を考え、内容を継続して共有し続けることが必要であると考えます。 ・教職員に向けた、健康に関する研修や、ほけんだよりに指導ポイント等をまとめた教職員向けほけんだよりを発行し、学校全体で健康の保持増進に向けて取り組んでいきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生と中学生が揃って帰っている姿を見るとほほえましいです。地域にとっても防犯上でもプラスになっている。 ・誰にとっても笑顔があふれる学校生活であってほしいです。 ・今の時代、スマホ・ゲーム中毒になり、睡眠時間が短く生活リズムも乱れてしまう生徒も多いように聞きます。家庭も協力していくことが必要だと感じます。

（４）学校独自の取組

<p>重点目標</p> <p>「地域を愛し、主体的に学び、自らの未来を創造する児童・生徒を育てる」</p>
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中校長会、小中主任会のさらなる推進 ・小中連携主任会の開催（１か月に１度程度） ・小中合同研究授業、小中合同研修会の充実 ・小学生と中学生がともに学び、ともに活動する場の創造 （相互の行事等への参加、生徒会と児童会のさらなる連携、小学生の授業体験と部活見学への参加） ・小学校で行われている、行事や研究のアナウンスをする。 ・小中 PTA の合同行事を通じた連携
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート結果

小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。

中間評価

各種指標結果	
・教職員アンケート	令和6年度 令和5年度 小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。 54.5% ← 63.3%
自己評価	分析（成果と課題） ・昨年度は「しなやかな道徳」の研究に向けて、年間に何回か小中で集まり、授業づくりをしてきたので、小中一貫教育についての意識があったのではないかと思います。今年度はそれがないたため、なかなか、小中での交流ができていなかったことも、関係するかと思います。 ・相互の行事等への参加や小学生と中学生がともに学び、ともに活動する場、小中PTAの合同行事などを、コロナ禍以前の状態に徐々に戻し、実施できるようになってきました。
	分析を踏まえた取組の改善 ・来年度に向けて、小中での授業交流を進めていけたらと思っています。手始めに、定期テストの午後に各小学校を訪れ、どのような授業をされているかという、参観をはじめていけたらと思っています。 ・また、小学校からは、「まるごと太秦ウィーク」を利用して、参観していただけるように、声掛けをしていく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・教職員アンケート 小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・コミュニケーション能力はかなり良い傾向にあると思います。その上でご家庭で読書の時間を作って頂ければ、自身の知識が蓄積され、話す力・聞く力も付いてきますので、是非ご家庭で読書の時間を作って下さい。 ・体育大会など、全学年が交流する機会が増えれば社会性が育つのではないのでしょうか。 ・体育大会を見ながら、みんなで何かに取り組むことができることは良いことだと実感しました。近年、多様な学びがあるけれども、公立中学校においては協働できることが素晴らしく思います。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果	
・教職員アンケート	後期結果 前期結果 小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。 62.5% ← 54.5%
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・今年度も、「南太秦区民運動会」や「太秦福祉ふれあい祭り」に中学校の吹奏楽部が参加することができ、地域との交流を深めることができた。 ・昨年度に引き続き、小学6年生対象のオープンスクールでは体験授業等を行うことができた。中学校のことを知ってもらい、「中学校が楽しみになる」ため、教職員と生徒会が協力して行った。

	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は小中での合同あいさつ運動を見送った。児童会と生徒会の本部児童生徒が実施方法を共同で検討したが、勤務時間外の活動ということで、今年度は見送った。 ・今年度から、第3回定期テストの放課後に、小学校の授業参観に行った。今まで、普通授業の交流ということはしていなかったので、よかったと思う。また、本校の太秦ウィークに小学校の先生の参観があった。 ・各学校の分掌の長による小中主任会を定期的実施し、今年度の目標や取組内容、反省から来年度の課題、また小中の生徒情報交換などを行うことができた。 ・また、今年度より、定期的に小中の教務主任が集まり、意見交流を重ねてきた。細かな打ち合わせができてよかった。 ・2月には小中による作品交流を行い、より一層の小中の結びつきを確認できるだろう。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・負担感なく取り組める内容であることも継続して取り組むことができるポイントである。そのことも念頭に置き、小中合同の取組を検討・模索していく。 ・そのために、小中主任会の連携をさらに密にして、実施していく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで何かに取り組むことができることは良いことだと実感しました。卒業式も楽しみにしています。 ・多様な学びがあるが、公立中学校は協働できることをこれからも大切にして欲しい。 ・地域行事に茶道部や吹奏楽部が参加して盛り上げてくれていることを継続して欲しい。 ・区民運動会に中学生の種目を初めて取り入れました。どれだけ参加してくれるのか不安でしたが、予想よりも多く参加者がいて、いい雰囲気でした。

(5) 教職員の働き方改革について

<p>重点目標</p> <p>教職員の超過勤務時間の縮減をめざす</p>
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営の組織化 ・各部の長による部の統括 ・個々の教職員のレベルアップ ・管理職による面談 ・電話対応時間の変更
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート結果 ① 働き方改革を意識して、超過勤務時間を削減できるように努めていますか ② 気持ちよく働いていますか ・出退勤システムによる超過勤務時間の様子 ・ストレスチェック

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート 	令和6年度 令和5年度
--	-------------

- ① 気持ちよく働けていますか。 90.9%←93.3%
- ② 働き方改革を意識して、
超過勤務時間を削減できるように努めていますか。 90.9%←63.3%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・「働き方改革を意識して、超過勤務時間を削減できるように努めている」と回答した教職員が、昨年度よりも27%増加した。昨年度、時間外勤務を個人で振り返り、比較もできるようにグラフを作成し共有した効果もあるのか、今年度は時間を意識して仕事をしている教職員が多い。年度当初の準備や学校行事、成績処理、部活動のコンクールや大会など業務が重なる月では、時間外勤務が削減できていない現状がある。
- ・採点処理ソフト「百問繚乱」を活用することで、採点時間短縮につながっている。また、保護者連絡ツール「すぐーる」を導入したことで、毎朝の欠席連絡による電話対応が少なくなり、授業準備や朝の学活準備に専念できている。加えて、休日部活動の連絡もできるようになり効率よく保護者や生徒に連絡や体調確認ができ、働きやすくなっている。
- ・「気持ちよく働けている」と回答した教職員が昨年度より2.4%減ったが、90%と高い数値を維持している。一方、そう回答していない10%の教職員の原因に目を向け、コミュニケーションをとりながら、さらに改善していく必要がある。
- ・まだ、時間外勤務が月80時間を超える教員が数名いる。目標としている45時間を毎月超えている教員は10名と目標達成にはさらなる努力が必要である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・ICTの活用による効率的・効果的な授業づくりや研修、教材研究をさらにすすめ、教員の負担軽減と質の高い指導を推進していく。また、自ら進んで家庭学習を行える環境を整える方策の1つとしてもICT活用を推進していく。
- ・OJTを通して、実務を通じて必要な知識やスキルを身に付け、すぐに効果が発揮できるように教科間や学年間、年齢差を超えて研修できる職場づくり、また、若手教員や中堅教員がやりがいをもって働くことができる職場づくりを目指す。
- ・電話対応時間（留守番設定時間）を小学校と合わせたことで、生徒、保護者ともに連絡時間が分かりやすくなり、時間を意識して連絡があるようになった。出勤時間や退勤時間を意識して働くことを継続して周知していき、時間外勤務を少しでも削減できるように促す。また、仕事量の偏りに目を向け、担任業務や学年、分掌での役割分担等協力できる体制づくりをしていきたい。
- ・一方で、困りを抱えた生徒や保護者に寄り添い、生徒中心に考えていくことは必要であり、時間を割いて丁寧に寄り添い耳を傾けていくことを教職員と徹底していきたい。時間外勤務の削減のために業務の効率化や簡略化のみが焦点化されないように議論していく。
- ・時間外勤務を分析すると、休日部活動が占める割合が大きい。各部顧問の意識だけでなく、大会や記録会を計画する中体連や各競技団体が時間を意識した年間計画を立てる必要がある。今後の部活動地域移行の動向も踏まえ改善していきたい。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・教職員アンケート
 - ①働き方改革を意識して、超過勤務時間削減ができていますか。
 - ②気持ちよく働けていますか。
- ・出退勤システムによる超勤時間の様子

	・ストレスチェック
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 働き方改革については、全職員の意識改革が進んでいて、オール太秦でより一層改革を進めて下さい。 多くの教職員の方が超過勤務にならないように勤められているとのこと、とても良いと思います。今後もこの状態が続けられるように保護者としても協力させていただけることがあるのであればしていきたいと思います。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果		
	・教職員アンケート	後期結果	前期結果
	① 働き方改革を意識して超過勤務時間削減ができていますか。	87.6%	← 90.9%
	② 気持ちよく働けていますか。	87.6%	← 90.9%
自己評価	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 「働き方改革を意識して、超過勤務時間を削減できるように努めている」と回答した教職員が、中間評価と同様に高い結果で、継続して時間を意識して仕事をしている。一方、持ち帰り仕事をせざるを得ない状況(家庭状況)があることも現状である。 保護者連絡ツール「すぐーる」の活用が定着し、毎朝の欠席連絡や個別配信ができることで働きやすくなっている。また、ペーパーレス化もすすめられている。 「気持ちよく働けている」と回答した教職員が3.3%減っていることに目を向け、さらに改善していく必要がある。 まだ、時間外勤務が月80時間を超える教員が数名いる。多い時には100時間を超える場合もある。目標としている45時間以内を達成するには課題が多い。 		
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員のワークライフバランスや勤務状況を把握し、今後の教育・職場環境の改善につなげ、過ごしやすい学校・働きやすい職場づくりをさらにすすめていく。また、持ち帰り仕事の時間・内容、働きがいやワークライフバランスについては、考え方は様々なので負担やストレスがないようお互い尊重できる環境づくりをすすめていく。 ICTの活用による効率的・効果的な授業づくりをさらにすすめ、教員の負担軽減と質の高い指導を推進していく。また、自ら進んで家庭学習を行える環境を整える方策の1つとしてもICT活用を推進していく。 OJTを通して、実務を通じて必要な知識やスキルを身に付け、すぐに効果が発揮できるように教科・学年・年齢を超えて研修できる職場づくりを目指し、すべての教職員がやりがいをもって働くことができることを目指す。 電話対応時間(留守電設定時間)を小学校と相談しながら見直すことで、中学校ブロック単位で地域にも浸透できるように周知する。教職員にも出退勤時間を意識して働くことを継続して周知し、少しでも時間外勤務時間が削減できるように促す。また、仕事量の偏りに目を向け、担任業務や学年、分掌での役割分担等を見直し、来年度に向け準備をしていく。 一方で、時間外勤務の縮減のために効率化や簡略化のみが焦点化されないように、困りを抱えた生徒や保護者に寄り添い、生徒中心に考えていくことが必要であることも教職員と議論・確認していくことも必要である。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務を分析すると、休日部活動が占める割合が大きい。学校だけの取組だけでは限界がある。大会や記録会を計画する中体連や各競技団体が月45時間以内の時間外勤務を意識した年間計画を立てる必要があると考える。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革については、意識改革が進んでいることを実感しています。 ・超過勤務にならないように意識していることで、持ち帰り仕事をしているとも聞いています。難しい問題だと思います。 ・地域行事に参加して欲しいと思っていますが、引率される先生のことを考えるとあまり言いすぎることは控えるべきかなとも思います。 ・令和7年2月27日の学校運営協議会にて、理事へリーフレットの配布・動画視聴を行った。また、部活動地域展開のプリントも配布し、教員の負担軽減や働き方改革、地域の抱える課題等それぞれの課題やその解決に向けた意見交換を行った。まだまだ時間をかけて話し合う必要があると感じた。

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標	自ら考え行動し、協働できる生徒の育成
具体的な取組	「学校いじめの防止等基本方針」に同じ
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ① 全教職員が学校いじめの防止基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている ② 学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している ③ 生徒、保護者アンケート結果 <ul style="list-style-type: none"> ・1人1人が大切にされている学級ですか ・他人を大切にしていますか ④ 生徒、保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している ⑤ 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめ防止等基本方針や学校の取組を説明、周知している

中間評価

各種指標結果	
① 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努める。	令和6年度 令和5年度 87.8%←93.3%
② 学校のいじめ対策委員会のメンバーを児童生徒に紹介する。 ⇒ 学校だより（6月号）に掲載し、「すぐーる」配信で周知した。 未登録の家庭には紙面配布で周知した。	
③ 生徒・保護者に次の学校評価アンケートを行う。	
生「一人一人が大切にされている学級ですか。」	90.9%←90.9%
保	89.5%←85.8%
生「他人を大切にしていますか。」	97.0%←96.8%
保	95.4%←95.9%
④ 児童生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容の共有	90.9%←96.7%

	<p>⑤ 保護者や学校運営協議会等に学校いじめの防止等基本方針や学校の取り組みを説明・周知する。 ⇒ 学校だよりやホームページを通して、保護者へ学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知した。</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①の項目で数値が減少している。全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解できるような発信が不十分であったと考えられる。また、④の項目の数値も減少していることから、教職員間での情報共有や報・連・相の徹底が不十分であったと考えられる。 ・③の項目では、保護者アンケートの「他人を大切にしていますか。」の数値以外は上昇傾向である。教職員が真摯に教育活動に努めた結果であると考えている。保護者アンケートの「他人を大切にしていますか」の項目の数値が下がっている理由として、学校外での SNS や通信ゲームでの会話において、あまり良い言葉を使っていないことも原因の一つであると考えられる。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の小さな変化を見逃さず、教職員間で情報を共有して、組織としていじめ未然防止に努める。また、学校の取組を知らせていくことを大切にする。 ・中学校入学前や学校外の人間関係も中学校での人間関係に起因することがよくあるため、小中連携による情報共有、保護者や地域からの情報収集、日常の生徒の言動に常にアンテナを張ることが必要である。 ・他人と関われる、他人のことを考えることができる活動の量を増やしたり、一層工夫する。 ・学年会、補導部会、生徒指導委員会を中心に情報を共有し組織的な対応を行う。突発的な事象が起きた際にも、報・連・相をより一層徹底していく必要がある。また、全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解するように発信していく必要がある。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者アンケート <ul style="list-style-type: none"> ① 「一人一人が大切にされている学級ですか。」 ② 「他人を大切にしていますか。」 ・教職員アンケート <ul style="list-style-type: none"> ① 「学校いじめの防止等基本方針」の内容を理解し、組織的対応に努められましたか。 ② 生徒・保護者の訴えや相談内容を学年・学校で共有できていますか。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心無い言葉で傷つき、また温かい言葉で救われたりと人と人とのつながりに言葉は大切です。何気ない言葉でいじめが起こらないよう、子どもたちにも言葉の大切さを学んでほしいと思います。 ・校内のいじめ対策委員会で、校長を先頭に常日頃から、生徒との距離を縮め対面で生徒と向き合っておられると思いますが、更に研鑽を積み重ね、日本一の学び舎になる様頑張ってください。 ・他の人を馬鹿にしたりからかったりした事がある・そういう人が多いと感じているという子が多いと思います。そう気づいているのであれば、そういうふうにならないように気をつけられる子が増えてくれればいいなと思います。 ・学校全体でいじめ防止に取り組んでおられるとのこと大変すばらしく思います。

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

	後期結果	前期結果
・生徒・保護者に次の学校評価アンケート		
① 生「一人一人が大切にされている学級ですか。」	90.8%	90.9%
保	87.7%	89.5%
② 生「他人を大切にしていますか。」	98.5%	97.0%
保	97.8%	95.4%
・教職員アンケート		
①「学校いじめの防止等基本方針」の内容を理解し、組織的対応に努められましたか。	87.5%	87.8%
②生徒・保護者の訴えや相談内容を学年・学校で共有できていますか。	90.7%	90.9%

自己評価

分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・他人を大切にしようとする気持ちは育っているが、大切にされていると感じている生徒は減っている。クラスメイトに慣れるにつれ、人をいじる行動が増える。いじりといじめの境をしっかりと正す必要がある。また、嫌ないじりはクラスに悪い雰囲気をもたらし、人を大切にしない雰囲気がより濃くなるのが考えられる。人を馬鹿にすることが許されない温かい雰囲気をつくるのが求められる。また、クラスメイトや教員とのつながりが弱い生徒たちがいることも考えられるので、生徒をしっかりと観察し声掛けや取組をしていく必要がある。
- ・教職員は日常の観察や各種のアンケートの中で、いじめの早期発見やいじめに発展することのないよう未然防止に努めている。その背景には、生徒指導委員会や学年体制等の組織でいじめ防止に当たっている。しかし、小さなトラブルの内容までは学年間で共有されていない可能性もある。再度、報連相の徹底をしていく必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

- ・昨年度と同じような値の変化を示しているため、この結果を真摯に受け止め改善することが求められる。今年度は昨年度よりも生徒指導についての自主研修を校内で行ってきた。学級経営や生徒の指導の仕方などについて、教員のスキルアップは不可欠なので、次年度も実施し、教員の意識を高めていきたい。
- ・人を大切にしようとする心は育ってきており、それを行動で示すことができるように指導していきたい。また、人とのつながりを創り出していく取組を大切に、一つ一つの取組によって人と人がどうつながっていくのかを理解した上で実践していきたい。今年度、エンカウンター取組の本を購入しており、次年度につなげていきたい。
- ・いじめ防止の対応には、生徒指導部と学年の縦横双方の組織で取り組む体制を今後も大切にする。また、見逃しのない観察と早期発見、指導を心がけていく。
- ・自尊感情が高まる取組や生徒同士がつながる取組を一層推進し、それを学級通信や学年だより、学校だより、またホームページ等で積極的に保護者に発信するように努めたい。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・「太秦中学校の生徒でよかったと思う」と回答した生徒が94.1%。これがすべてだと思います。
- ・いじめ・不登校・ヤングケアラー等生徒を取り巻く社会環境は、年々厳しくなっていますが、よかったと思える学校づくりを続けて欲しいと思います。
- ・何気ない言葉でいじめが起こらないよう、言葉の大切さを学んでほしいと思います。